



2022年3月期第2四半期 決算補足説明資料

証券コード：2108 日本甜菜製糖株式会社

2021年11月9日



1. 【2022年3月期連結業績予想を修正】

- ・売上高、利益を上方修正

(9/16に公表した通期業績予想を修正いたします 詳細は12ページをご参照下さい)

2. 【東証市場再編への対応】

- ・11/9開催の取締役会においてプライム市場を選択する決議をいたしました
- ・ガバナンスの強化についても逐次取り組んでおります

(ガバナンスの強化に対する取り組みについては16ページ以降をご参照ください)

3. 【資本業務提携の進捗状況について】

- ・効率的生産体制の構築 (2021年8月30日開示)
- ・持分法適用関連会社の株式売却 (2021年9月16日開示)

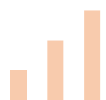
(詳細は14、15ページをご参照ください)



1. 第2四半期決算概要 4 P～
2. 資本業務提携の進捗状況について 13 P～
3. ガバナンスの強化について 16 P～
4. 参考資料 22 P～



※「てん菜」は、「ビート」とも呼ばれる農作物です
光合成により根部に砂糖分を蓄えます
北海道畑作の輪作体系に組み込まれている基幹作物となっており、持続可能な北海道農業に寄与しております



1. 第2四半期決算概要



第2四半期決算概要

5

- ・ 砂糖事業、飼料事業、不動産事業の売上、利益が増加
- ・ 営業利益は前年同期比 734百万円増（84.8%増）
- ・ 特別損失に係る会社株式売却損を計上

単位：百万円

	2021年3月期		2022年3月期			
	第2四半期実績 (A)	通期実績	第2四半期実績 (B)	前年との差異 (B)-(A)	前年同期比	通期予想に 対する達成率
売上高	24,862	54,792	26,197	1,334	5.4%	44.6%
売上原価	17,358	38,422	18,688	1,330	7.6%	—
売上総利益	7,504	16,369	7,509	5	0.1%	—
販売費及び一般管理費	6,638	14,479	5,908	△730	△11.0%	—
営業利益	866	1,889	1,600	734	84.8%	76.2%
売上高営業利益率	3.5%	3.4%	6.1%	—	—	—
経常利益	1,068	2,349	1,882	813	76.2%	72.4%
売上高経常利益率	4.3%	4.3%	7.2%	—	—	—
当期純利益	715	1,642	652	△62	△8.8%	59.4%



セグメント別 砂糖事業

6

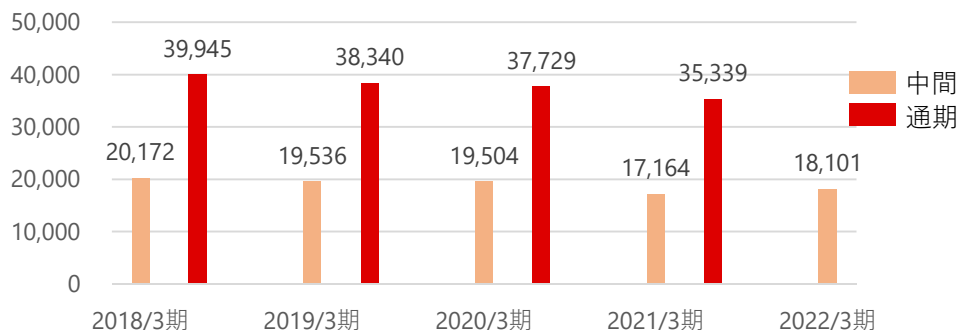
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	17,164	35,339	18,101	+ 936
営業利益	384	▲716	1,041	+ 657

- 例年並みの販売量には及ばないまでも飲料向け、外食向けの出荷が回復傾向
- 砂糖販売価格の上昇
- 収益認識会計基準の影響により売上高が1,249百万円減少

売上高

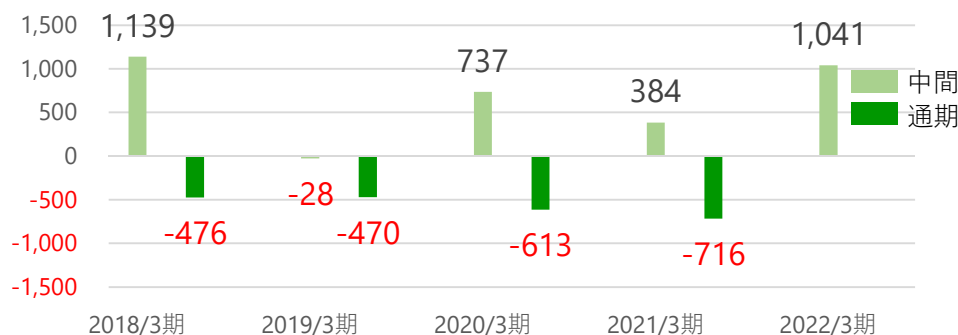
単位：百万円



- 売上高はてん菜の豊凶、海外砂糖相場、国内砂糖消費量等、外部要因の影響大
- 一定の数量を超えるビート糖は、安価なビート原料糖として販売
- 国内消費量の減少により、ビート原料糖の販売量が増加し、売上高は減少傾向

営業利益

単位：百万円



- コスト削減への取り組みが課題
- 10月－11月に収穫されるてん菜から製造されるビート糖の棚卸資産の一部について、砂糖市況の動向により評価損の計上が必要になる場合があり、第3四半期以降の損益が悪化する傾向がある



セグメント別 食品事業

7

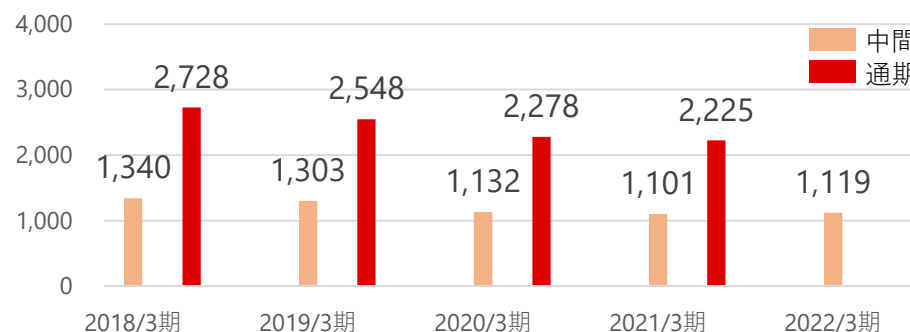
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	1,101	2,225	1,119	+17
営業利益	9	23	▲3	▲12

- 前期の家庭用イーストの巣ごもり需要が一段落、イーストの損益悪化
- ラフィノース、フラクトオリゴ糖の販売量が増加

売上高

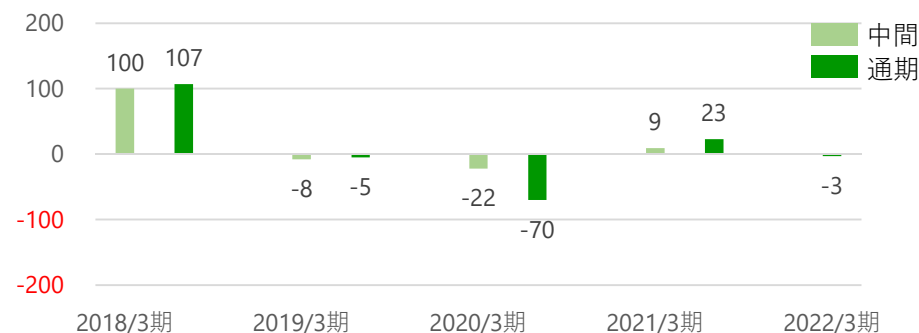
単位：百万円



- ドライイーストの販売拡大に注力
- ベタイン等の素材で苦戦
- 液状オリゴ糖の拡販により売上の確保に努めている

営業利益

単位：百万円



- イースト新規設備投資による償却費負担
- オリゴ糖等食品素材の販売回復が課題



セグメント別 飼料事業

8

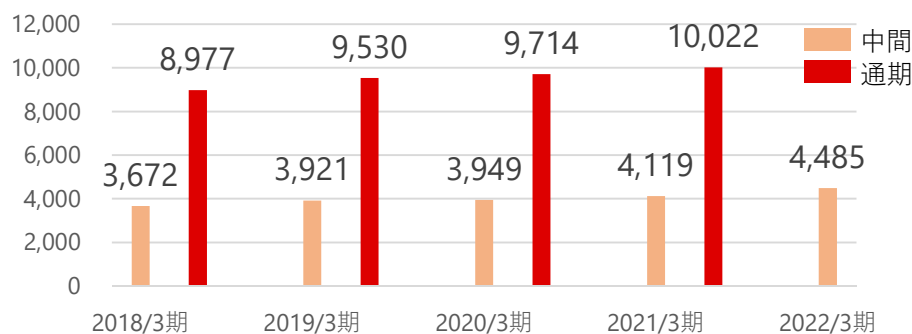
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	4,119	10,022	4,485	+ 365
営業利益	101	1,164	171	+ 70

- 搾乳ロボット用やオリゴ糖を配合した飼料の販売量が増加
- ビートパルプの繰越在庫の販売量が減少

売上高

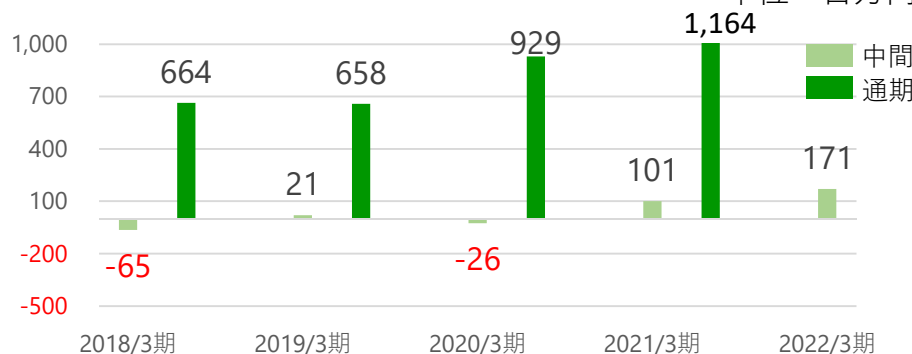
単位：百万円



- 配合飼料売上数量は増加傾向
- 機能性のある独自商品を継続的に市場へ投入
- ビートパルプ売上はてん菜の豊凶に依存

営業利益

単位：百万円



- とうもろこし等原料価格が製造コストに大きく影響



セグメント別 農業資材事業

9

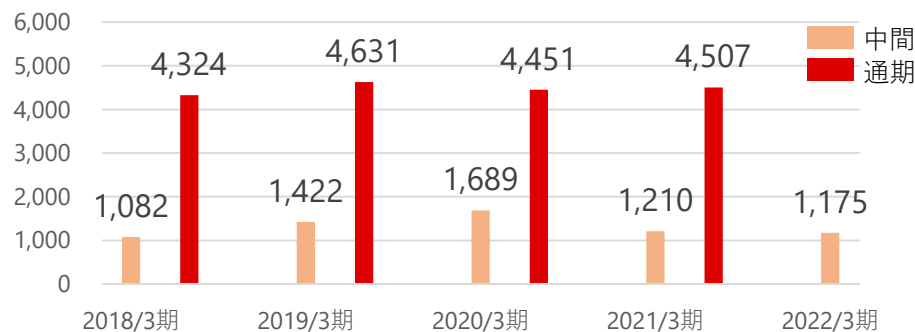
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	1,210	4,507	1,175	▲34
営業利益	29	470	▲27	▲56

- そ菜用紙筒の販売量が増加
- 移植機等の売上が減少
- 販売費が増加

売上高

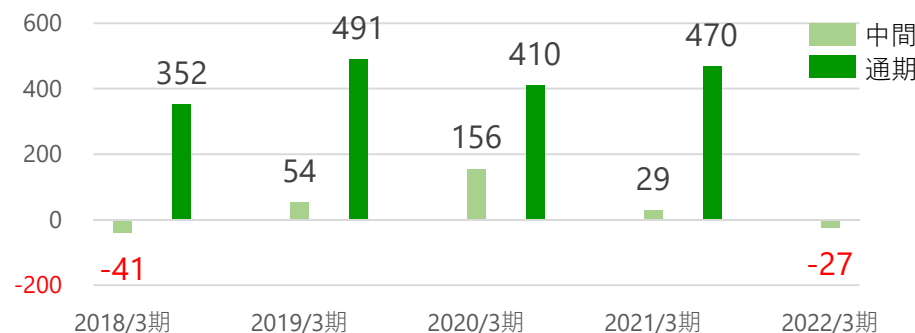
単位：百万円



- 直播拡大によりビート用紙筒販売が減少傾向
- そ菜用、輸出用の紙筒が増加
- ビート用移植機は、年度により受注数量の変動が大きい

営業利益

単位：百万円



- 紙筒の出荷時期のずれによる影響あり

※直播：ポット等で育苗しないで、
直接畑や庭にタネをまくこと



セグメント別 不動産事業

10

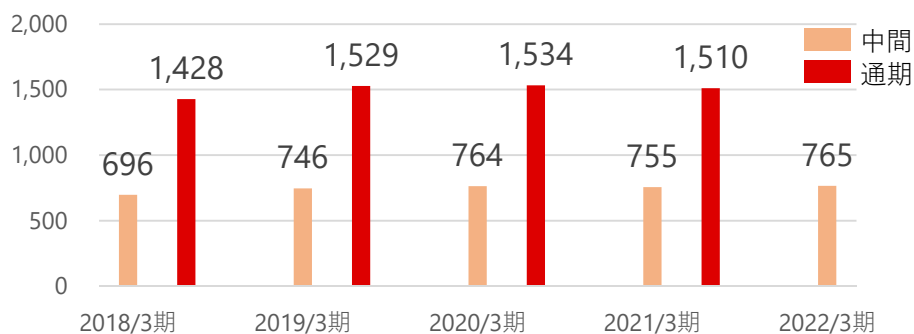
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	755	1,510	765	+ 9
営業利益	413	866	474	+ 60

- 賃貸状況が改善

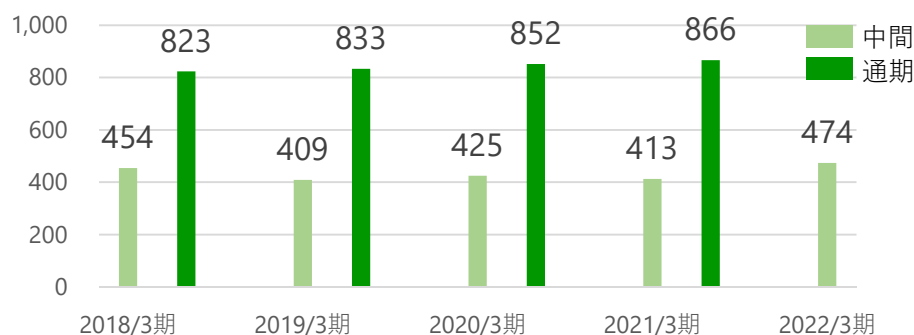
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



- 主力の帯広商業地区賃貸物件が、大規模修繕の時期に入りつつある
- 経費削減等もあり、収益改善傾向
- 各テナントとの友好的な関係の維持に努める



セグメント別 その他の事業

11

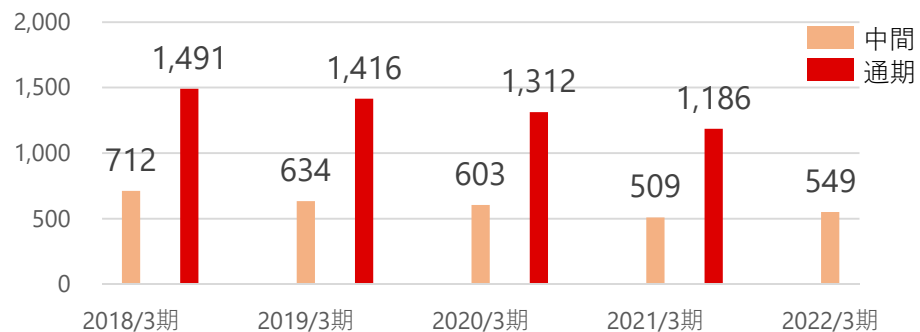
単位：百万円

	2021/3期 2Q	2021/3 通期	2022/3期 2Q	増減 (前年同期)
売上高	509	1,186	549	+ 39
営業利益	▲131	79	▲120	+ 11

- 石油類の販売価格上昇
- 貨物輸送量増加

売上高

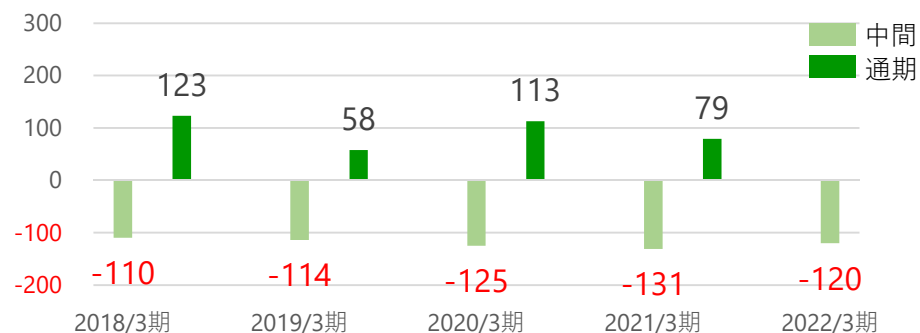
単位：百万円



- 連結会社間の売上は連結決算にて消去されるため、連結決算の売上に計上されない

営業利益

単位：百万円



- 秋に農作物の輸送があるため、下期に利益が増える傾向あり



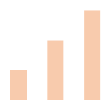
今期業績予想の修正について

12

- 9月16日に公表した連結業績予想を修正 売上、利益とも上方修正
- 砂糖需要が引き続き減少しているものの砂糖販売価格の上昇とコスト削減により砂糖事業の損益改善、飼料事業において配合飼料の販売好調
- 10月から開始した今期製糖については、効率的な製糖に努め、ビート糖製造コストの低減を図る

単位：百万円

	2021年3月期		2022年3月期			
	第2四半期実績	通期実績	第2四半期実績	前回（9/16）通期予想	通期予想	前回予想との差異
売上高	24,862	54,792	26,197	57,000	58,800	+1,800 (103.2%)
売上原価	17,358	38,422	18,688	—	—	—
売上総利益	7,504	16,369	7,509	—	—	—
販売費及び一般管理費	6,638	14,479	5,908	—	—	—
営業利益	866	1,889	1,600	1,800	2,100	+300 (116.7%)
売上高営業利益率	3.5%	3.4%	6.1%	3.2%	3.6%	
経常利益	1,068	2,349	1,882	2,300	2,600	+300 (113.0%)
売上高経常利益率	4.3%	4.3%	7.2%	4.0%	4.4%	
当期純利益	715	1,642	652	826	1,100	+274 (133.2%)



2. 資本業務提携の進捗状況について



DM三井製糖HD(株)との資本業務提携の進捗状況 ビート糖の効率的生産体制構築に関する基本合意について

14

(2021年8月30日プレスリリース)

・DM三井製糖HD(株)の連結子会社である北海道糖業(株)は、北海道の3工場にて、てん菜糖を製造

北海道糖業(株)の本別製糖所の生産設備の老朽化のため、原料てん菜の加工について、てん菜生産者に影響を及ぼさず、効率的に加工するための方策を検討

・2023年3月をもって北海道糖業(株)の本別製糖所の生産を終了



DM三井製糖HD(株)との資本業務提携に則り、

ビート糖の効率的生産体制構築に関して、以下合意

2023年度の製糖から、北海道糖業(株)の本別製糖所に搬入している原料てん菜は引続き北海道糖業(株)が買い受け、ビート糖の生産については北海道糖業(株)北見製糖所及び当社の芽室製糖所にて分担し、販売については北海道糖業(株)が行う予定

当社は芽室製糖所にて、ビート糖の生産の一部を北海道糖業(株)から受託します

北海道のてん菜糖の工場（3者8工場）





DM三井製糖HD(株)との資本業務提携の進捗状況 持分法適用関連会社の異動（株式譲渡）

（2021年9月16日プレスリリース）



15

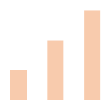
DM三井製糖HD(株)との資本業務提携の一環として、

当社の持分法適用関連会社である関門製糖(株)の当社保有株式のすべてを

DM三井製糖HD(株)の100%子会社である大日本明治製糖(株)に9月30日に譲渡しました

この株式譲渡により関門製糖(株)が当社の持分法適用関連会社から除外されました

- ・ 当社製品の精製糖については、10月以降も大日本明治製糖(株)を介して関門製糖(株)での製糖を継続し、販売いたします
納入品目・荷姿・数量等については従来通りであり、販売価格に影響しません
弊社、関門営業所において引き続きユーザーサポートに努めます
- ・ 本件株式譲渡により当第2四半期連結決算において特別損失を675百万円計上いたしました
(単体決算の特別損失計上額は24百万円となります)
(連結決算において関門製糖(株)の連結貸借対照表計上額との差額を特別損失に計上するものであり、損失計上に伴う現金の流出はありません)
なお、2022年3月期の期末配当予想につきましては変更ありません
- ・ 今後もDM三井製糖HD(株)との資本業務提携に則り、生産・物流・研究等を通じ効率的な経営を図り、企業価値の向上に努めてまいります



3. ガバナンスの強化について



政策保有株式の一部縮減

17

- 当社は財務活動の円滑化、取引先及び事業上の提携先の関係の維持・強化、株式の安定等の政策上の目的で上場株式を保有しております
当社の主業であるてん菜糖業は北海道地域経済に深く根付いており、長期的かつ安定的に事業を継続する必要があります。株式の保有は、多くのステークホルダーとの間で良好な取引関係を維持し、事業を継続するための手段の一つと考えております
- 政策保有株式については保有の必要性、妥当性について取締役会で定期的に検証しておりますが、11月取締役会において直近の状況等を踏まえ各銘柄ごとに審議したところ、政策保有株式の一部について、保有の必要性が薄れていると判断し、徐々に縮減する方針といたしました
この方針により当社が保有している**政策保有株式の一部について縮減いたします**

【政策保有株式の縮減の計画】

【2022/3期以降】

今期から、保有する政策保有株式の一部を段階的に縮減いたします
政策保有株式の売却にあたっては、都度、取締役会で決議します
年度ごとの売却額については未定であり、株式市場の動向によっては売却を先送りする可能性があります

【売却資金の使途】

政策保有株式の売却代金については芽室製糖所の設備投資にあてるほか、環境対策の投資にも充当します
持合い株式の解消になるものについては自己株式の購入にあてます



多様性の確保に向けた人材育成方針と社内環境整備方針について

●人材育成方針及び社内環境整備方針

近年の市場環境の急激な変化や科学技術の進歩への適切な対応、また着実な事業継続のために、人材の育成及び活用は大変重要であり、そのためには多様な価値観・経験・知識を持った人材、また、さまざまな立場にある人材が活躍できる環境を整備することで、様々な発想が生まれ、企業の競争力を維持・向上することが可能となると認識しております

よって継続して、

- ①多様な価値観・知識・経験を持った人材の採用と育成
- ②多様な働き方の実現を支援する制度の充実
- ③従業員のキャリア形成への支援

に取り組んで参ります

●中核人材についての登用等における多様性の確保

・女性・中途採用者・外国人の管理職登用の目標

- ・女性管理職の比率 (2021/3期) 1. 4 % → (2031/3期) 5 % 以上
- ・中途採用者管理職の比率(2021/3期) 5. 5 % → (2031/3期) 10 % 以上
- ・外国人については現在採用実績はありませんが、当社募集に対し適性ある方の応募があれば公平に判断いたします



気候変動に係るリスクについて

19

近年、北海道においても気温上昇や異常気象が散見され、原料てん菜の生育への影響や病虫害の発生も懸念されるところです

当社については主業である てん菜糖業や飼料事業、農業資材事業において気候変動による影響が大きいと考えており、また、気温の変化に伴う消費者の嗜好の変化により当社商品である砂糖、イーストへの消費が左右される可能性があると考えております

・当社グループについて温暖化などの気候変動によるリスクについては以下、取り組んでおります

今後とも気候変動への対応に向けて取り組んでまいります

ガバナンス ・リスク管理	・気候変動に関するリスクについては本年9月にリスク管理推進委員会で評価し、取締役会に以下、報告しております ・エネルギー管理委員会を設置し、エネルギー使用量の管理及び削減に向けて取り組んでおります
-----------------	---

温暖化などの気候変動により想定されるリスク

原料てん菜の収量・品質への悪影響	砂糖事業	食品事業	飼料事業
輸入原料(粗糖・配合飼料原料)の価格高騰・調達難		砂糖事業	飼料事業
製品販売への影響	消費者の嗜好の変化に伴う砂糖・イーストの需要の変動	砂糖事業	食品事業
	牛の食欲低下による配合飼料の売上減	飼料事業	
	栽培地域／栽培方法の変化による農業資材の需要の変動	農業資材事業	
環境対策(CO2排出量削減など)によるコストの増加			
環境対策が不十分な場合のレピュテーションリスク			



事業ポートフォリオについて

20

- 第1次日甜グループ中期経営計画において、**砂糖事業・不動産事業を基盤事業とし、食品事業・飼料事業・農業資材事業を成長事業**と位置付けております
直近の事業年度における各事業における設備投資・研究開発投資・人的資本への投資等の状況については以下のとおりです

【2021/3期】

成長事業

単位: 百万円

		砂糖事業	食品事業	飼料事業	農業資材事業	不動産事業	その他の事業	※全社	合計
外部顧客への売上高		35,339	2,225	10,022	4,507	1,510	1,186		54,792
内部売上を含む売上高	A	35,535	2,250	10,036	4,510	1,624	8,285		62,242
事業毎の利益	B	-716	23	1,164	470	866	79		1,886
事業毎の資産	C	41,131	2,786	4,567	6,552	8,609	3,041	30,703	97,392
投資額	D	1,558	65	341	287	120	198		2,572
減価償却費		1,056	163	230	184	368	195		2,199
人員数	E	327名	72名	53名	139名	1名	80名	75名	747名
人員の増減(前年比)		+12名	-1名		+1名		-2名	+7名	+17名
試験研究費	F	318	128	120	81	-	-		648

従業員1名あたり売上高	A/E	108.7	31.3	189.4	32.4	1624.0	103.6		83.3
従業員1名あたり利益	B/E	-2.2	0.3	22.0	3.4	866.0	1.0		2.5
試験研究費の売上高比率	F/A	0.9%	5.7%	1.2%	1.8%				1.0%
事業利益/事業資産	B/C	-1.7%	0.8%	25.5%	7.2%	10.1%	2.6%		1.9%
投資の売上高比率	D/A	4.4%	2.9%	3.4%	6.4%	7.4%	2.4%		4.1%

※全社(資産)は、現預金及び有価証券等です

※全社(人員)は、管理部門の従業員です



CSRの取組み

21

重点項目	主な課題	主な取り組み	SDGsへの対応
製 品	安全・安心な製品の供給	・ 食品安全管理(FSSC22000) ・ 国産の砂糖およびイーストの安定的な供給 ・ 機能性を有する食品素材の製造・販売	 
	てん菜の有効利用	・ 機能性を有する食品素材の抽出 ・ 天然素材の研究開発 ・ 家畜用飼料への活用	
	北海道酪農業への貢献	・ 国産の飼料原料であるビートパルプの供給 ・ 牛の健康に配慮した飼料の開発	
環 境	環境に配慮した製造	・ CO2排出抑制 ・ 取水量・放流量削減 ・ 産業廃棄物の削減	    
	環境に配慮した製品輸送	・ 鉄道輸送・海上輸送の採用	
	廃プラスチックの削減	・ 紙や麻繊維を使用した農業資材の製造・普及	
	森林資源の保護	・ 林木用の育苗資材 ・ 業務のペーパーレス化	
農業支援	持続可能な農業の実現	・ 原料事務所による生産者への営農サポート ・ てん菜作付面積の確保	  
	農業の省力化	・ 省力化のための移植機や農業資材の開発 ・ 地域特性を考慮した技術指導 ・ 耐病性品種の開発	
	食糧自給率の維持向上	・ 北海道畑作体系への貢献	
ひ と	働きやすい職場環境	・ 有給休暇の取得促進 ・ 病気治療および育児、介護との両立支援 ・ 在宅勤務制度の導入	 
	女性活躍の推進	・ 女性活躍行動計画の策定 ・ 女性活躍研修の実施	
社会貢献	製品の寄付	・ フードバンクや生活困窮者への製品提供	    
	障がい者支援	・ 障がい者就労支援施設を対象としたパンコンテストの開催 ・ 農業資材の開発による障がい者の農作業従事の促進	
	砂糖を通じた食育	・ ビート資料館(北海道帯広市)の運営 ・ 業界団体による啓蒙活動への参加 ・ 地域交流イベントの開催	
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスの強化	・ 指名・報酬委員会の設置 ・ 業績連動報酬導入	

※詳細については
会社HPをご参照
下さい



4. 参考資料



会社概要

23

社名	日本甜菜製糖株式会社（にっぽんてんさいせいとうかぶしきかいしゃ）
本社所在地	〒108-0073 東京都港区三田三丁目12-14 ニッテン三田ビル
代表者	取締役社長 惠本 司
資本金	82億7千9百万円
従業員数	778名（連結）／630名（単体）
事業拠点	ビジネスセンター（北海道河西郡） 札幌支社（北海道札幌市） 芽室製糖所（北海道河西郡）、美幌製糖所（北海道網走郡）、士別製糖所（北海道士別市） 清水バイオ工場、清水紙筒工場（北海道上川郡） 総合研究所（北海道帯広市）
子会社	十勝鉄道㈱（貨物自動車運送業、倉庫業、自動車整備業ほか） スズラン企業㈱（スポーツ施設、書店営業、石油類販売ほか） ニッテン商事㈱（食品卸売業） サークル機工㈱（農業用機械器具の製造販売） 士別スズランファーム㈱（農産物の生産・販売）



北海道寒冷地農業の振興と国内甘味資源の確保に寄与する

砂糖の安定供給を通じ、食文化の向上に貢献

新しい時代の変化に対応し、経営の多角化を図り、社業の安定発展を期す

社会に貢献できる企業に

当社は、国内での砂糖自給体制の確立と北海道の開拓推進を図るため、1919(大正8)年に創立されました

以来、常にてん菜糖業のパイオニアとして、「開拓者精神を貫き、社会に貢献しよう」の社是のもと、国内甘味資源の確保と北海道寒冷地農業の振興に努めてまいりました

社会は今大きな変革期を迎えています。当社では、てん菜糖業を中心とした既存事業の経営基盤を強化するとともに、時代に即応した事業展開を図り、常に時代の開拓者としてその社会的使命を果たし、社会から信頼される企業となるよう不断の努力を続けてまいります



事業紹介

24

当社は、てん菜(ビート)から砂糖（ビート糖）を製造し、販売しております。

てん菜は日本では北海道だけで栽培されており、作付けから収穫・製糖まで地域社会と密接に関連しています。

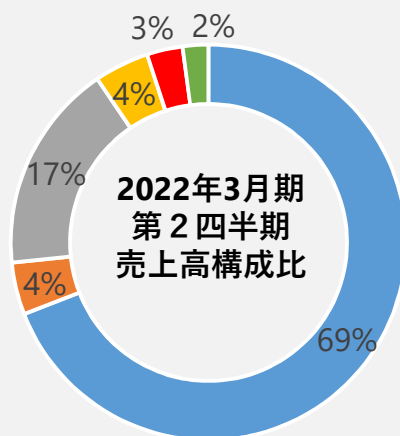
当社は、国産の砂糖を安定的に供給することで、食料自給率の維持と、食文化の継承に尽力しております。

てん菜から砂糖を抽出した後に乾燥させた繊維分は、ビートパルプと呼ばれ牛用の良質な飼料として利用されており、北海道の酪農業と密接なかかわりを持っております。当社はこのビートパルプにトウモロコシ等を配合し栄養価を高めた配合飼料も販売しております。

また、厳冬期の長い北海道でのてん菜の生育日数を補うために、当社ではビニールハウスでの播種、育苗を可能にした紙筒(ペーパーポット®)での育苗・移植技術確立、てん菜の生産性が飛躍的に向上した結果、てん菜が北海道畑作農業における基幹的作物として輪作体系に組み込まれたことにより、地域農業の振興と、ビート糖の安定供給に繋がりました。てん菜で培った育苗・移植技術を他の作物にも展開し、収量の拡大と農作業の軽減に寄与しております。

また、ビート糖にわずかに含まれるオリゴ糖、アミノ酸等を抽出し、食品素材として販売しているほか、ビート糖蜜を活用して、イースト、オリゴ糖を製造販売しております。

■ 砂糖事業 ■ 食品事業 ■ 飼料事業
■ 農業資材事業 ■ 不動産事業 ■ その他の事業





砂糖事業



●事業概要

北海道、西日本でお馴染みのスズラン印の砂糖を販売しております。
業務用の砂糖を大手菓子、飲料メーカー等に販売しております。
国産で高品質の砂糖を安定的に供給できるのが当社の強みです。

※季節性に関する説明

ビート糖の製造は10月にてん菜（ビート）を収穫してから、翌年4月にかけて砂糖を製造いたします。
第3四半期決算期末において仕掛中の棚卸資産が計上されますが、砂糖の売値が下がった場合、
棚卸資産の評価損を計上することになるため、年度により第3四半期の営業損益が悪化する場合があります。

【事業環境】

【国内外の状況】

日本で消費される砂糖の約6割は輸入されております。
約3割が北海道で製造されるビート糖（てん菜糖）、約1割が沖縄、鹿児島で製造される甘蔗糖（サトウキビ糖）です。
当社は北海道で製造されるビート糖の4割程度のシェアがあり、
また豪州、タイ等から粗糖を輸入し精製した精糖も製造販売しております。
ビート糖、精糖合わせ日本で消費される砂糖の1割強を当社で供給しております。
（※砂糖は植物に含まれるショ糖を純粋な形で取り出した天然の食品です。ビート糖でも甘蔗糖でも製品に差はありません。）
（※ビート糖、甘蔗糖の生産量は年度により変動します。当社の製造販売するビート糖には精糖の原料となる原料糖を含みます。）

【当社の状況】

当社は北海道の十勝、オホーツク、道北、道央地方の農家の方に原料てん菜を栽培していただき、収穫されたてん菜から砂糖を製造し販売しております。
2021年産の原料てん菜による製糖作業は10月から開始いたしました。



事業紹介

26

食品事業

●事業概要

ビート糖の副産物である糖蜜を活用し、イーストを製造・販売しております。

日本でドライタイプのイーストを製造しているのは当社だけです。

また、てん菜に含まれる有用成分を抽出した各種食品素材（各種オリゴ糖、ベタイン（アミノ酸の一種）、食物繊維等）を製造・販売しております。



飼料事業

●事業概要

てん菜に含まれる繊維質であるビートパルプは牛用の良質な飼料になります。

当社では、これにトウモロコシ等を配合し栄養価を高めた牛用の配合飼料を販売しております。

当社の配合飼料はイーストやオリゴ糖を配合した機能性のある飼料を特徴としております。



※季節性に関する説明

ビートパルプについては、製造が10～3月ごろであり、この時期の出荷が多くなります。

<お知らせ>

通信販売を開始しました。

機能性のある牛用サプリ等を販売しております。

ニッテン配合飼料ネットショップ

<https://nitten-feed.stores.jp/>



（コウシのミカタ®）
仔牛への初乳に添加
することで免疫物質
の吸収を助けます。



農業資材事業



●事業概要

育苗用の資材及び関連する機材等を製造・販売しております。

主力の紙筒（ペーパーポット®）はてん菜の収量増を目的に約60年前に自社で開発した移植栽培用育苗鉢で、現在は野菜・花卉・林木等多彩な作物に利用されています。

プラスチックを用いた育苗資材が多い中、特殊加工された当社の紙製の紙筒は環境問題から注目されています。また、移植作業の省力化が高く評価され、播種機材や移植機材を含めて国内だけでなく海外に販路を広めています。

※季節性に関する説明

農業資材事業については育苗用が中心のため季節性があります。
天候等さまざまな要因により出荷時期がずれる場合があります。

<新製品紹介 サークル機工(株)>

ロール式播種機 FSS-4（4畦）、FSS-6（6畦）

てん菜種子または大豆種子の直播と二種類の肥料の施肥を行うことが可能です。

（子会社 サークル機工(株)は農業用機械・器具の製造販売をしています。）





不動産事業

●事業概要

東京都、北海道等でオフィスビル、商業店舗等の賃貸をしています。
帯広市の旧製糖所跡地の一部を再開発した地区（約17万㎡）は、道東で最大規模の複合商業施設となっており、地域の皆様の暮らしに貢献しております。



その他の事業

●事業概要

子会社十勝鉄道(株)は、農作物や飼料等の運搬により十勝の地域経済に貢献しております。
子会社スズラン企業(株)はガソリンスタンド、ボウリング場、書店を経営しており、地域の皆様の暮らしに貢献しております。

※季節性に関する説明

農作物の運搬の多い10～12月に貨物輸送の売上が増加します。
(連結会社に対する売上は連結上消去されます。)





過去3年間の業績推移

29

- 当社グループは、売上高経常利益率を経営指標として設定し、目標とする売上高経常利益率を4.0%としております。

単位：百万円

	2019年3月期 第2四半期	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期
売上高	27,564	57,997	27,643	57,021	24,862	54,792	26,197
経常利益	613	2,037	1,421	2,085	1,068	2,349	1,882
当期純利益	486	1,324	983	1,340	715	1,642	652
純資産額	67,837	69,438	67,531	66,951	67,599	68,462	68,641
総資産額	91,586	98,302	91,410	96,405	90,379	97,392	93,227
1株当たり 純資産額(単位:円)	4,779.76	4,892.67	4,754.55	4,714.90	4,759.98	4,886.11	4,896.95
1株当たり 当期純利益額(単位:円)	34.30	93.37	69.29	94.44	50.40	115.88	46.59
売上高経常利益率	2.2%	3.5%	5.1%	3.7%	4.3%	4.3%	7.2%
自己資本比率	74.1%	70.6%	73.9%	69.4%	74.8%	70.3%	73.6%
株主資本利益率 (ROE)	—	1.9%	—	2.0%	—	2.4%	—
売上高のうち砂糖事業 の占める割合	70.9%	66.1%	70.6%	66.2%	69.0%	64.5%	69.1%



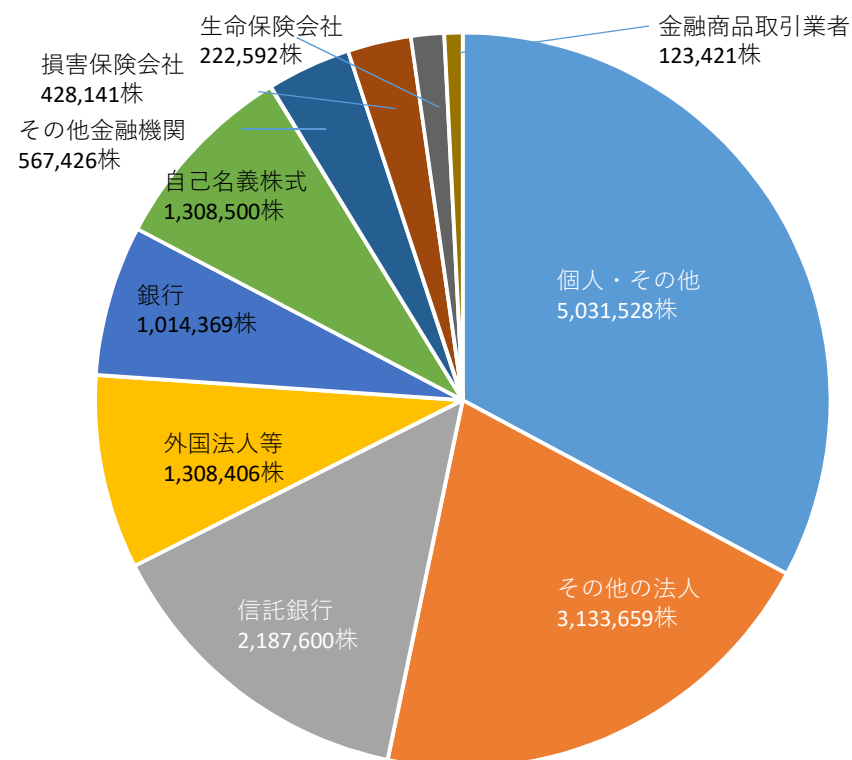
大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
明治ホールディングス株式会社	1,470,845	10.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,273,500	9.09
ニッテン共栄会	977,088	6.97
株式会社 日本カストディ銀行	560,400	4.00
株式会社みずほ銀行	515,183	3.68
農林中央金庫	514,926	3.67
東京海上日動火災保険株式会社	428,141	3.05
日本通運株式会社	320,288	2.28
D M三井製糖ホールディングス株式会社	265,300	1.89
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	250,800	1.79

※当社は自己株式1,308,500株を所有しておりますが、上記大株主の記載からは除外しております。

※持株比率は、自己株式数を控除して算出しております。

株主構成分布状況



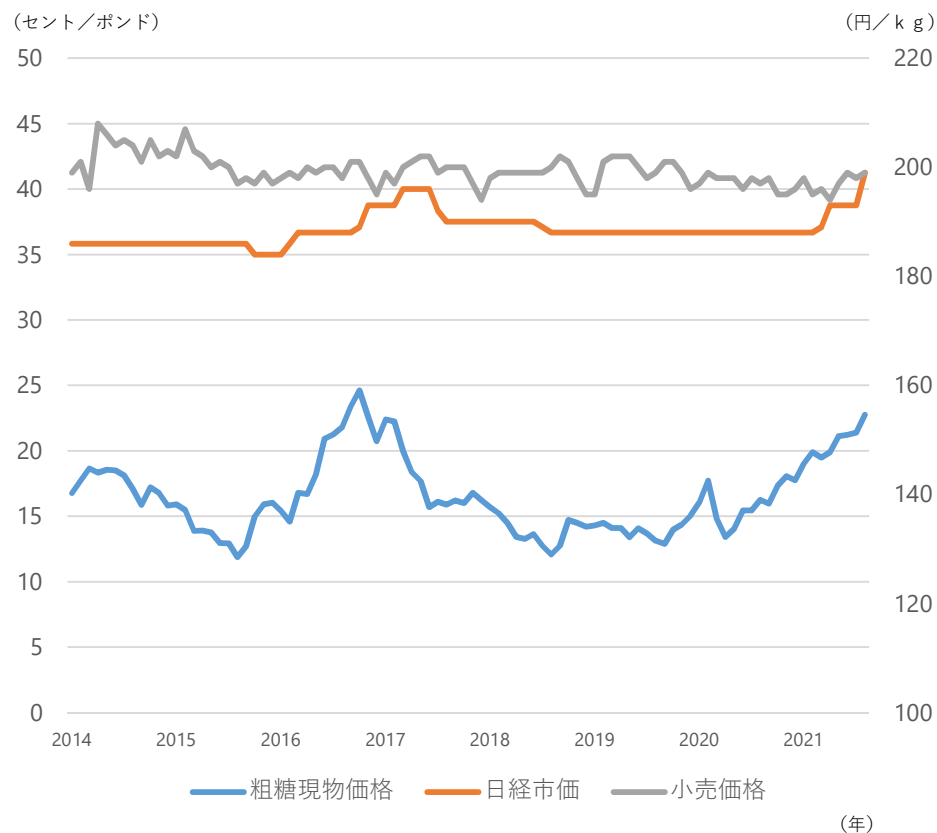


砂糖価格・砂糖消費量

31

砂糖市場の推移

2021年8月現在

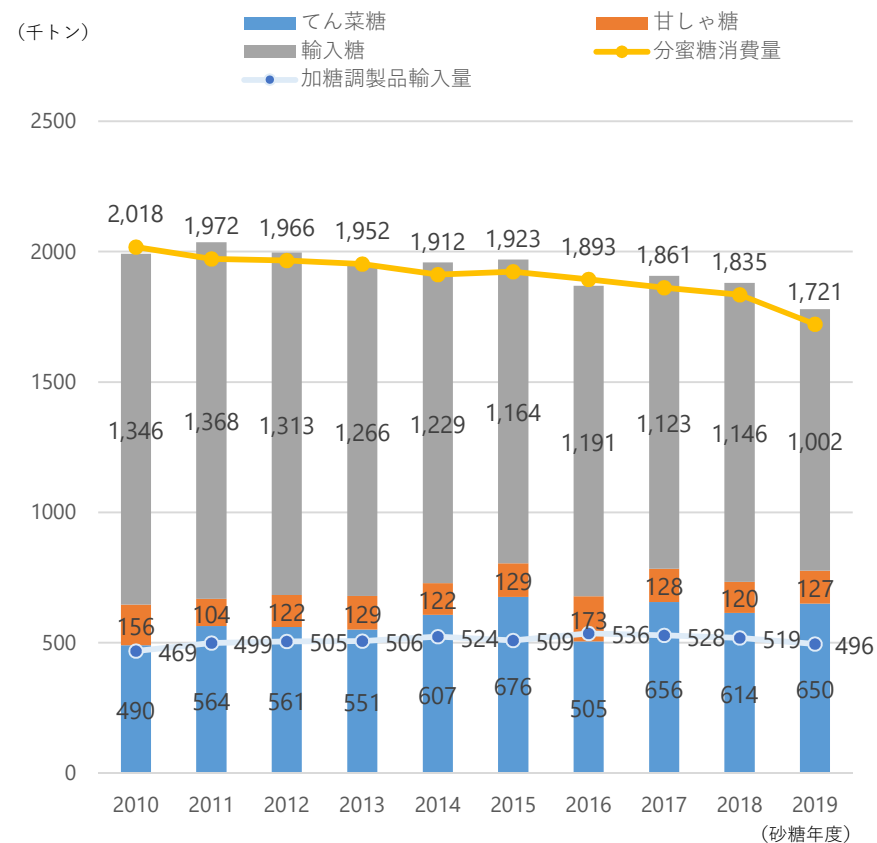


注1：小売価格は、総務省統計局調べ。

注2：日経市価は、日本経済新聞の市中相場（東京、上白、30kg大袋入り）の価格（消費税抜き）で、各月の平均値。

注3：粗糖現物価格は、東京商品取引所・大阪堂島商品取引所調査の粗糖現物価格（月平均価格）

砂糖消費量の推移



※砂糖年度とは、当該年の10月から翌年の9月までの期間

農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」より当社作成

本資料は、作成時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして実際の業績等はこれらと異なる可能性があります。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害につきましても当社は一切責任を負わないことをご承知おきください。

本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

【お問い合わせ先】

日本甜菜製糖株式会社
管理部管理課

soumutky@nitten.co.jp